

令和7年度青森県立保健大学
学校推薦型選抜（理学療法学科）

小論文試験問題

10:15～11:45（90分）

〈注意事項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が3ページあります。
- 3 落丁・乱丁がある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には、下記の記入例により **あなたの名字の頭2文字及び受験番号を忘れず**に記入してください。
- 5 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

〈解答用紙への記入例〉

（例1）

| | | |
|------|---|---|
| 頭2文字 | ス | ズ |
|------|---|---|

（鈴木：スズキ）

（例2）

| | | |
|------|---|---|
| 頭2文字 | ザ | イ |
|------|---|---|

（財前：ザイゼン）

（例3）

| | | |
|------|---|---|
| 頭2文字 | キ | ッ |
|------|---|---|

（吉川：キッカワ）

| | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|
| 受験番号 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 |
|------|---|---|---|---|---|---|

令和7年度青森県立保健大学学校推薦型選抜 小論文試験問題

理学療法学科

問題Ⅰ 次の英文を読んで、後の問に日本語で答えなさい。（*には注釈があります。）

In many countries, including Japan, the elderly are defined as having a chronological age* of 65 years or older. However, there is no clear medical or biological evidence to support this definition. Recently, this definition of the elderly has come to not match the current situation in Japan, although there are individual differences in the elderly. Many of the elderly, especially aged those younger than 75 years, are still robust* and active. ①Many people feel hesitant* to treat them as elderly, and many of them feel uncomfortable being treated as elderly. Based on these reasons, in 2013, the Japan Gerontological Society* and the Japan Geriatrics Society* launched a joint committee to reconsider the definition of the elderly, and discussed the definition of the elderly from various aspects for 3 years. As a result of analyzing various data on the physical and psychological health of the elderly in recent years, a phenomenon of “rejuvenation*” has been seen in which the appearance of changes in physical function as a result of aging, including gait speed* and grip strength, have been delayed by 5–10 years among the elderly at present compared with 10–20 years ago. Even among those aged 65 years or older who have been regarded as elderly, especially the young-old aged 65–74 years, mental and physical health is well maintained, and the majority of them are capable of taking part in active social activities. Furthermore, according to the results of various awareness surveys, the opinion against recognizing those aged 65 years or older as elderly is generally gaining strength in society as well. According to the survey carried out by the Cabinet Office of the Japanese Government*, many people think that those aged over 70 or 75 years should be considered elderly. Therefore, our joint committee would like to propose a classification of people aged over 65 years as follows.

- Aged from 65 to 74 years: pre-old age
- Aged over 75 years: old age
- In addition, people aged over 90 years can be classified as oldest-old or super-old*.

（出典：Yasuyoshi Ouchi et al. “Redefining the elderly as aged 75 years and older: Proposal from the Joint Committee of Japan Gerontological Society and the Japan Geriatrics Society”, Geriatrics Gerontology International, 2017, 17, p.1045 より抜粋。ただし、出題の都合上、文章の一部を省略・改変している。）

*chronological age 暦年齢

*robust 健常な

*hesitant ためらう

*the Japan Gerontological Society 日本老年学会

*the Japan Geriatrics Society 日本老年医学会

*rejuvenation 若返り

* gait speed 歩行速度

* Cabinet Office of the Japanese Government 内閣府

* oldest-old or super-old 超高齢期

問 1 下線部①の理由について、本文の内容を踏まえ、40 字以内で説明しなさい。

問 2 高齢者の定義が日本の現状と合わなくなっていることを示す 4 つの調査結果について、本文の内容を踏まえ、240 字以上 300 字以内で説明しなさい。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

2050年には全世帯に占める一人暮らし（単独世帯）の割合が44.3%に達する――。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）は、そんな将来推計を公表した。単独化は加速しており、2033年には全世帯の平均人数が初めて2人を割り込むという。

社人研は5年に1度「日本の世帯数の将来推計」を公表。今回は2020年の国勢調査をもとに、2020～50年を推計した。

世帯総数は、2030年の5,773万世帯をピークに減少に転じる。一方、世帯人数が1人である単独世帯は2036年をピークに減るが、全世帯に占める割合は上がり続ける。2020年の38.0%から、2050年には44.3%と6.3ポイント上昇する見込みだ。

単独化は想定以上のスピードで進んでいる。2015～40年を推計した前回（2018年）は、2030年に37.9%、2040年に39.3%と見込んでいたが、今回は2030年に41.6%、2040年に43.5%と、それぞれ4ポイント程度上ぶれた。これは、2015～20年の間に実際の単独世帯の割合が著しく増加したことが影響したという。

特徴的なのは、高齢者の単独化だ。65歳以上の人のうち、一人暮らしの割合は、2020～50年で女性が23.6%から29.3%に、男性は16.4%から26.1%に上昇する。女性はもともと長生きで一人暮らしが多い傾向にあったが、男性は未婚率の上昇によって今後、急激に増える。

65歳以上の単独世帯の未婚率をみると、2020～50年で、女性は11.9%から30.2%に、男性は33.7%から59.7%になると推計された。

高齢者世帯の単独化と未婚率の上昇は、社会状況の変化ともあいまって、①介護需要の増大を招く。きょうだいや、子ども自体の数が減っていくなかで、30年後は、手助けできる近親者がいない一人暮らし高齢者が増加すると想定される。

社人研人口構造研究部の第2室長は、「医療・介護だけでなく、金銭管理や意思表示など、日常生活で細かな支援を必要とする人が地域の中で増える。そうした人を支える仕組みを早急に考える必要がある」と話した。

介護保険制度が始まった2000年度当初に約3.6兆円だった介護の総費用は、すでに約4倍に膨らんでいる。保険料で制度を支える現役世代も減少するため、政府は、介護保険サービスの利用者負担の引き上げなどを検討している。介護ニーズの増大による介護保険財政の圧迫にどう対応していくのか。避けられない課題となっている。

（出典：『2050年、44%が一人暮らし』朝日新聞、2024年4月13日より抜粋。ただし、出題の都合上、縦書きの原文を横書きにし、文章及び図の一部を省略・改変している。朝日新聞社（承諾番号25-0744）に無断で転載することを禁じる。）

問 下線部①の背景を、本文の内容を整理して書きなさい。その上で、背景から見える課題を1つ取り上げ、さらにその課題に対して理学療法士としてどのように関わっていくのか、あなたの考えを400字以上500字以内で述べなさい。